# 関和久遺跡（せきわぐいせき）

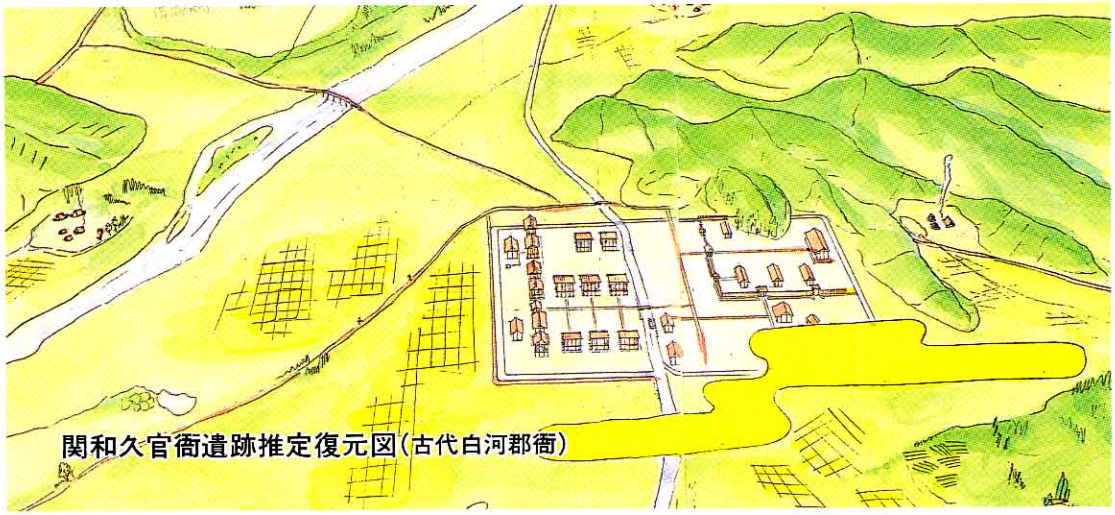
所在地／泉崎村大字関和久

## ●関和久遺跡の変遷

1．白河郡衙（郡家）は古代白河郡（現行政区の白河市・西白河郡・東白川郡・石川郡）の中心官庁として律令制度の政治を行なったところで、その成立期は、７世紀末から８世紀初頭ごろである。

2．遺構群の規模・建物の数が最大となったのは９世紀前半である。関和久官衙遺跡の最盛期はこの時期と考えられる。

3．10世紀後半には、郡衙としての機能は完全に停止していたものと考えられる。



関和久官衙遺跡推定復元図（古代白河郡衙）

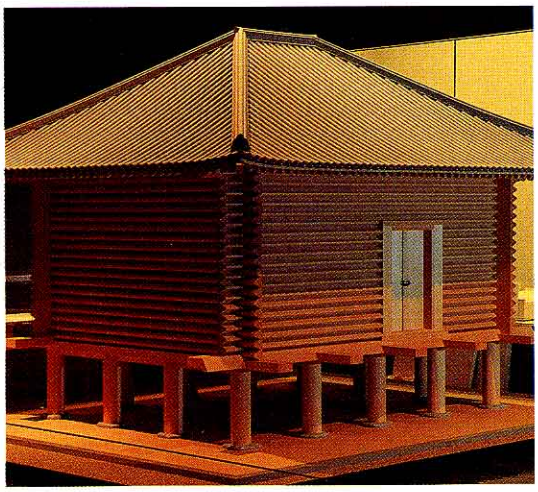
関和久官衙遺跡遺構配置図に基づいて、古代白河郡衙の建造物を推定して復元したものである。

## ●跡地の現況

遺跡は埋め戻され、後世の開発者に静かに引き継がれようとしている。

関和久遺跡は、背後の木之内山（きのうちやま）（棚内（きのうち）か）の山間に抱かれ、前は阿武隈川に面した段丘上にあり、昭和47年（1972年）から10年間、福島県教育委員会によって調査をされました。

その結果、長方形の区画が南側低地と北側段丘上にあり、南が古代白河郡の正倉院（官立の倉を正倉、その集合区画を正倉院という）で北が郡庁院であることが判明しました。



関和久遺跡の正倉復原
（福島県立博物館蔵）